

3月末の思い出と今の私

写真は9年前の名古屋市立大学のわが研究室。本に埋もれていた研究室整理も終わり、なんだか寂しさが感じられる。黄色のヘルメットは防災用であり、次の住人に引き渡すものだ。毎日のように利用した研究室には愛着があり、椅子に座り、35年の「教員時代」を振り返った。退職して、研究室がいかに重要な「居場所」であったことを思い知った。



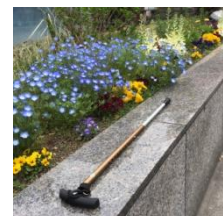
3月31日、大学本部で学長から退職辞令をもらい研究室に戻って、ベランダから下を見ると、写真のように桜の花が。これが見納めと思いながら、学部の教職員の皆さんにお礼のメールを送った。



すぐに、同僚の石川洋明さんから返信が届いた。「私も、やり残した仕事を進めていこうという立場ですが、スローペースが許されるかどうかは神のみぞ、知るです。くれぐれもお体にはお気をつけておすごしください(病気は私だけで十分です)」と書かれていた。石川さんは3ヶ月後に亡くなった。通夜と葬儀の席で、このメールのコピーを何度も読み返して涙した。

それから9年。今年も親しくしていた同僚が退職する。大学も大きく変わっているであろう。コロナ禍もあり、大学にもご無沙汰している。退職から3年半後、名古屋から大阪に転居して、なんとか元気に暮している。今年2023年も4分の1が過ぎてしまう。退職後は決まった予定もなくなり、自分なりに日々の記憶を、レポートなどに記録するようにしている。

年明けから、「夢洲IRカジノ差し止め」住民訴訟関連の仕事に関わった。夢洲の地盤について専門家から話を聞いて、訴訟についての知見を深めた。忘れられないのが2月11日に堺で行った講演である。私がなぜ住民訴訟の原告になったのか、夢洲リスクの現実から住民訴訟について話した。大学院時代の堺・泉北コンビナート調査研究を思い出した。久しぶりの対面講演であり、キンチョーしながらも、ダジャレも飛ばすことができた。想定外の住民訴訟への多額のカンパも頂戴した。これは、ホンマさかいです。



研究会報告やシンポジウム参加とコメントなど、これまで以上に積極的に活動してきた。大阪市の陳情など、私なりに動いてきたが、体調に「ずれ」が生じた。写真は大阪市立中央図書館前のきれいな花壇。腰痛の身で足を痛めてしまい、歩く時につえを利用している。

「つえつき物語」から、早く軽快に街歩きを楽しみたいものだ。

(2023年3月31日)